



編集後記
From Editor

緑の中を走る機関車型の車両は、広い大阪城公園内の足とじて家族連れや高齢者に人気

今の若い世代は、将来に対して大きな不安を抱いているという。就職や仕事においても、一度「正規」のルートから外れてしまうと、将来の全てを失ってしまいかねないのではないかと。だから、「絶対に失敗をしたくはない」ということになる。リスクを負うことを非常に不安視している。やり直しがきかない社会であるというより、むしろ、やり直しができないと皆が思ってしまったという社会になっているようだ。

私の周囲の若い人たちを見ていても、それなりに優秀だけれど、非常に慎重だという印象が少なくはない。限られた範囲の中で、とにかく実地に、という感じ。先日も、留学を希望する学生が大きく減っていると報じられていたように、今の若い世代の人たちには、大きな飛躍よりも、目の前の確実性を求める傾向が強いかもしれない。もともと、親の世代の経済的な余裕の無さが大きく影響していることも否めない。ただ、若者らしい、冒険を怖れない人たちが相対的に少なくなると、その社会はどうなっていくのだろうか？と少し心配になってくる。

今の世の中の状態を見ると、長引く不況や経済のグローバル化の波の中で翻弄され、とりわけ若い世代の人たちが、人生の目的や自分の居場所を見失い、大きな閉塞感に取りまかれてしまっているように感じられる。就職や結婚に対しても大きな期待が持てない。未来に対する夢や希望も感じられないということになる。結果として社会全体が沈滞化していく。では、どうすれば良いのだろうか。

神野直彦さんは、そうした問題は、世代性を越え、社会的な連帯意識を醸成していかない限り、制度的な対応だけでは解決できないという。それぞれの人が、自分と社会との関係をしっかりと考えていくことが、その一歩である。働くことの意味や楽しみ、生きることの幸せなども、自分のことだけではなく、他者とのつながりの中でなくては捉えられないのだと。同様に、今回の香山リカさんとのトークにおいても、幸せというのかたちが非常に多様であるということに改めて気づかされた。そしてやはり、他者とともにつながっているからこそ、感じられる幸せがあるということも。人の生き方は多様である。人生の成功も失敗も表裏のものであると言える。それは、決してひとつの尺度や価値観だけではかるべきものではないだろう。

—— 京 雅也

表紙写真 土手を駆け上がりトレーニングするサッカー部の生徒たち/大阪都心のビル群を望みながらランニング(淀川河川敷公園)
裏表紙写真 木陰で演奏の練習をする若者たち/野球のユニフォーム姿で練習場へ向かう少年/猛暑続きの今夏、パラソルの下で、ほっと一息(大阪城公園)

CEL 94号 特集 ■ 現代生活者の住まい・生活観2010-持続可能性と生活満足 発行●平成22年10月1日 頒価1,000円(送料別途)

■発行 大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所(CEL)
〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2

■発行人 多木秀雄 Hideo Taki

■編集人 京 雅也 Masaya Kyo / 弘本由香里 Yukari Hiromoto

編集●関西ビジネスインフォメーション(株)内 CEL編集室
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18
住友中之島ビル7F TEL.06-4803-2307

印刷・製本●日本写真印刷株式会社

RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURE, ENERGY AND LIFE © 2010 OSAKA GAS CO.,LTD.

禁無断転載複製

※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも大阪ガスの見解を表すものではありません。本誌・バックナンバーのコンテンツやエネルギー・文化研究所(CEL)の活動内容はインターネットホームページ[http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/]でご覧いただけます。

本誌に関するお問い合わせ、ならびにご購読申し込みや送付先変更等のご連絡は CEL編集室 Tel.06-4803-2307 Fax.06-4803-2210 cel@kbicom.net まで